

## 姉と私

1993年11月26日、次女である私の七五三祝いで地元の神社に行った時の様子です。3歳の私は、きれいな衣装に初めてのお化粧、手には千歳飴を持って、照れたような嬉しそうな表情をしています。その隣にいるのは、4歳年上の姉です。姉は口をきゅっとむすんでカメラを見ている。当時の記憶はありませんが、姉に笑顔がないのは、緊張や恥ずかしさのせいではないということが、私にはわかります。なぜなら、私と姉と一緒に写っている幼少期の写真は、どれも同じ表情だからです。

姉は長女として生まれ、いとこの中でも最初の子だったためか、親戚一同からたいそう可愛がられて過ごしました。両親も可愛くてしょうがなかったのでしょう、母子手帳の記録やアルバムには、姉の成長が事細かに残されています。まだ一人っ子だった頃の姉の写真は、どれも満面の笑みで、ポーズをきめたりダンスを踊ったりしています。

その4年後、妹である私が生まれました。私は身体が弱く1歳前後を長らく病院で過ごしました。まだ赤ちゃんだったため、母親は入院中の私に付ききりで看病をしてくれました。まだ4、5歳だった姉にとっては、私の病気は理解できず、母を取られた気持ちになったのかもしれない。私は物心つく前から、姉の敵対相手となってしまいました。退院後も、母が私を抱っこしている様子を見ては「美咲は川に捨ててきて！」とやきもちをやいていたそうです。そのため、私と写る姉はいつだって不満気なのです。

その後小学校にあがっても、私に対するあたりは強く、私は姉を恐れていました。仲の良い兄弟や優しいお姉ちゃんの話を知ると、とてもうらやましく感じたのを覚えています。ですが今思うと、そんな姉から受けた影響は大きく、好きなアイドルや読んでいる雑誌は姉から教えられ姉と同じものを好きになっていました。

当時の新聞を見ると、1997年消費税が3%から5%になったニュースがありました。小学生のお小遣いには痛手だったと思いますが、姉と一緒に読んでいた月刊少女漫画を買うため、二人で近所のスーパーまで買いに行っていた思い出もあります。

大人になった今では、姉のやきもちが理解できるし、今思うと私は可愛くない生意気な妹だったと思います。私の2歳の息子がやきもちを焼いている姿を見ると、姉を思い出し「ごめんね」と思ったりもします。今は離れて暮らしていますが、お互い母親になったことで、ママ友として連絡を取り合うことが増えました。自分が子どもだった頃感じた、喜びや悲しみ、悔しさ、信頼を、お互いの子育てに生かしていけたら良いなと思います。

